

特別例会

「新東名・眺望ウォーキング in 静岡と三保の松原ウォーキング」

2012年2月26日(日)



4月14日開通の新東名が、静岡県内3箇所ウォーキングに解放された。南伊豆を五時に貸切バス一台で出発。目的地の「清水いはらインター」は、ウォーキングに向かう人、車で大渋滞。

ものすごい人の流れがインターに向かっている。車はまったく動かなくなった。



目的地手前の車の中でじっとガマンして座っている。これにウォーカーが耐えられるはずもない。貸切バスを支線の道路に置いて歩き出すことにする。もう出発からドタバタである。



インターに向けて車と人がつながっている。「清水いはら球場」からインターまでシャトルバスが運行されているが、乗車するために長蛇の列。もちろんウォーカーはバスを無視して歩き続ける。



遠くに新東名が見えてきた。道路の上を人が歩いているのが見える。



やっとインチェンジのゲートにたどり着く。名古屋と東京方面のカンバンが見える。中央分離帯に座ってめいめいに昼食とっている。開通したらできないことである。



歩いている、歩いている。高速道路の上を人が歩いている。
道路を支えるのはとてつもないコンクリートの構造物である。



昼食時、1人誰切り通しの斜面を登り頂上に立つ。清水港がはっきりと見える。
いままで新東名だと思って歩いていた道は、東名と新東名を結ぶジャンクションであった。
新東名は右端の奥の道路だと言う。



これが新東名である。真っ直ぐに道路が延びている。ここまで車で走れば数分などだろうが、歩くととなると遠い。新しい道を歩くのは気持ちのいいものである。



本線場を歩く。左側を進むと東京。右側が名古屋である。
この間、片道3.5キロメートルが解放されていた。ものすごい人であった。
この清水の会場は、1万人以上の人歩いていたことでしょう。



取付道路はまだ途中のものもあった。便利なものだけに、人間中心で、自然は隅に追いやられている。
この風景を、発展と見るのか、破壊と見るのか。はっきりしているのは、人間は二本の足で歩くということである。
無事、ゲートにもどる。29752歩、20キロメートルを完歩しました。
初めての場所で珍道中の続出でした。

新東名眺望ウォーキングを歩く

伊豆歩倶楽部会員 No. 618 清水政悦

「いきいきと三月生る雲の奥」 飯田龍太

春の寒さは、一ヶ月以上のずれがある。しかし、春の光は胎動して三月が生まれる。季節は規則正しくあの雲にのって、刻々と三月を生もうとしている。俳人・龍太はあの雲をとらえ、この句をよんでいるのだろうか。計り知れない、深い春の句として詠まれている。

二月二十六日、伊豆歩倶楽部は、新東名開通(四月十四日)前に、ラストチャンスとして各方面の、歩く仲間約 7,000 人(新聞報道による)と一緒に、「清水いはら IC ゲート」より入り歩くことが出来た。

薄曇りの空の下、弓形の取付路線を登り、高速本線に入り歩く。駿河湾から吹きつける風は、歩いていても寒く感じる。みかん畑、茶畑の山を切り開いた山肌の、法面や路面をささえる橋脚、全体として高架式の多い工法で建設され、技術的な美しさに、見せられるものであった。工事全体としてはまだ側壁や、分離帯等は未完であったが、まもなく完成するであろう。道幅もゆったりとした造りで、歩いていても心地良かった。天候が良ければ海や山の遠望は、絶景ではなからうか。

今日は、生憎遠くまで望めず残念だった。此处から富士山は見えるのだろうか、そんなことを考えながら歩いた。要所、要所の防護壁の窓から、地上の民家や畑を見下ると、地上七十米あるという(説明文にあった)下界、身の縮むような所が多かった。取越し苦労と思われるだろうが、四月十四日の開通後、万一車両事故発生を考えると、他事ながら安全運転を、願わずにはいられない気持であった。

二度と歩くことの出来ないこの道を、歩かせていただいた事に感謝し、両度「清水いはらゲート」に向かい、歩き出した。最後に一句詠ませて頂きました。お笑ください。

「下萌の 駿河を股ぐ 道歩む」

新東名・眺望ウォーキングに参加して

伊豆歩倶楽部会員 No. 508 進士 ひさ子

清水いはらインター(9 km)、三保の松原(6 km)を歩く予定で下田を貸切バスにて出発した。参加者 4 4 名 + 4 名の大家帯にて二度と歩けないところを歩くことに心ウキウキしながら一路新東名に思いをはせた。

ウォーカーは 7,000 人位かなと聞きのんびりとしていたら、とんでもない駐車場に向かうのに大渋滞、バスをジロジロ見回す

ウォーカー達。まるで蟻の行列・・・? 避難訓練みたいだった。とうとう駐車場の手前から歩き「いはらインター」につきスタート準備をして歩き始める。歩きながら隙間から下を覗き「とっても高くに造ったものだね」「なるほど地震、津波の避難対策」など話しながら歩き、あげくには生活の知恵、料理、世間話に至るまで話題はいろいろ。勿論、景色は最高! 天候もよし! おまけにスタンプ片方でストラップゲット。ああ、楽しかった。7,000 人位何とんでもない。乳母車から小・中学生、恋人同士、団体までウォーカーは数万人と言っても間違いのないほどであった。よって、トイレもシャトルバスも利用するまでに長蛇の列にとにかく「すごかった」の一言にすぎる。

事務局の皆様のおかげであの大勢の中一人も迷う人もなく無事にスタート地点、駐車場まで帰って来られたことに対し、大変な気疲れだったと思います。

三保の松原には時間の都合でまた後日となりましたが、皆さん満足だったと思います。お疲れさまでした。

ありがとう御座いました。